

図43 製塩土器詳細図11

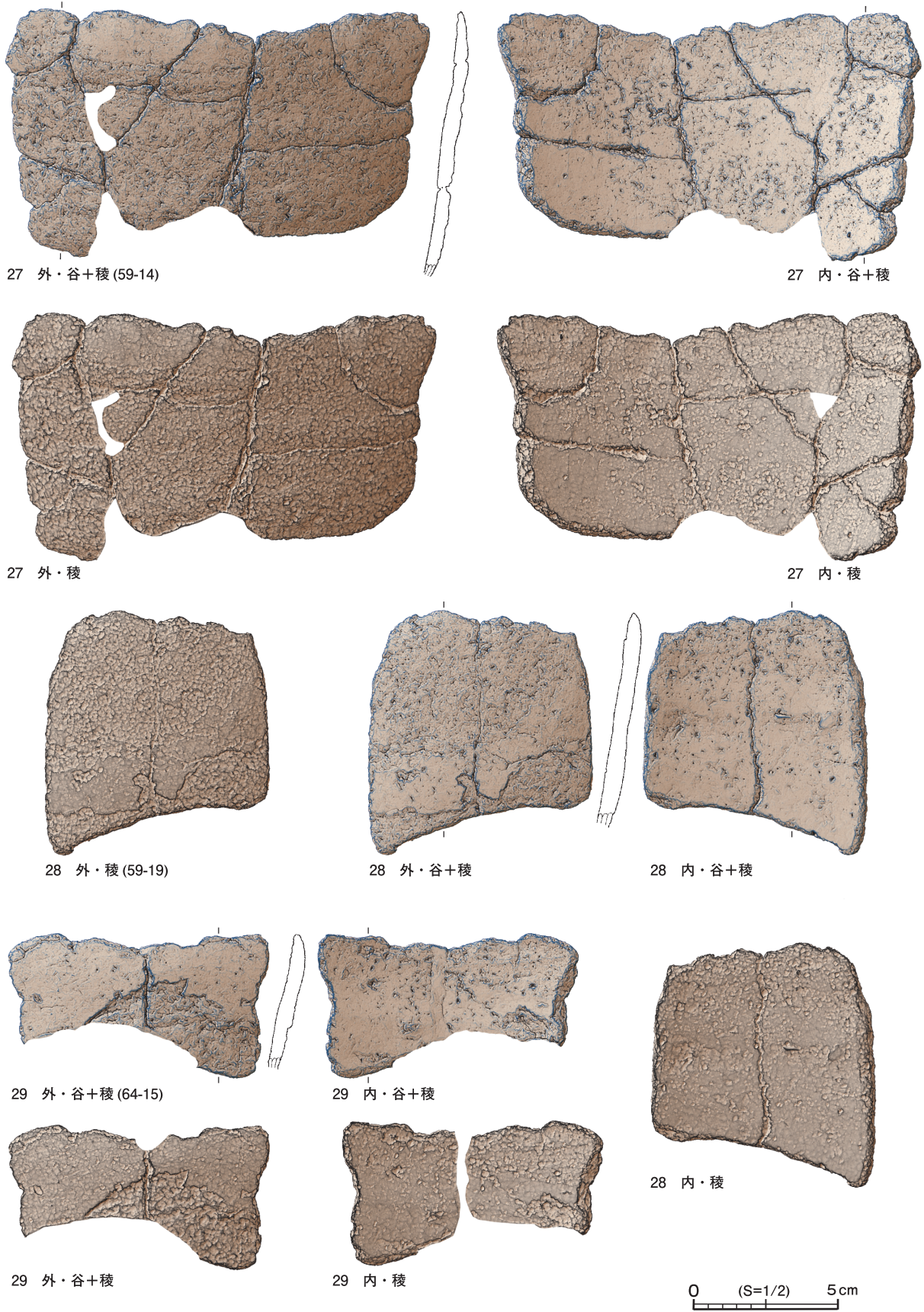


図44 製塩土器詳細図12

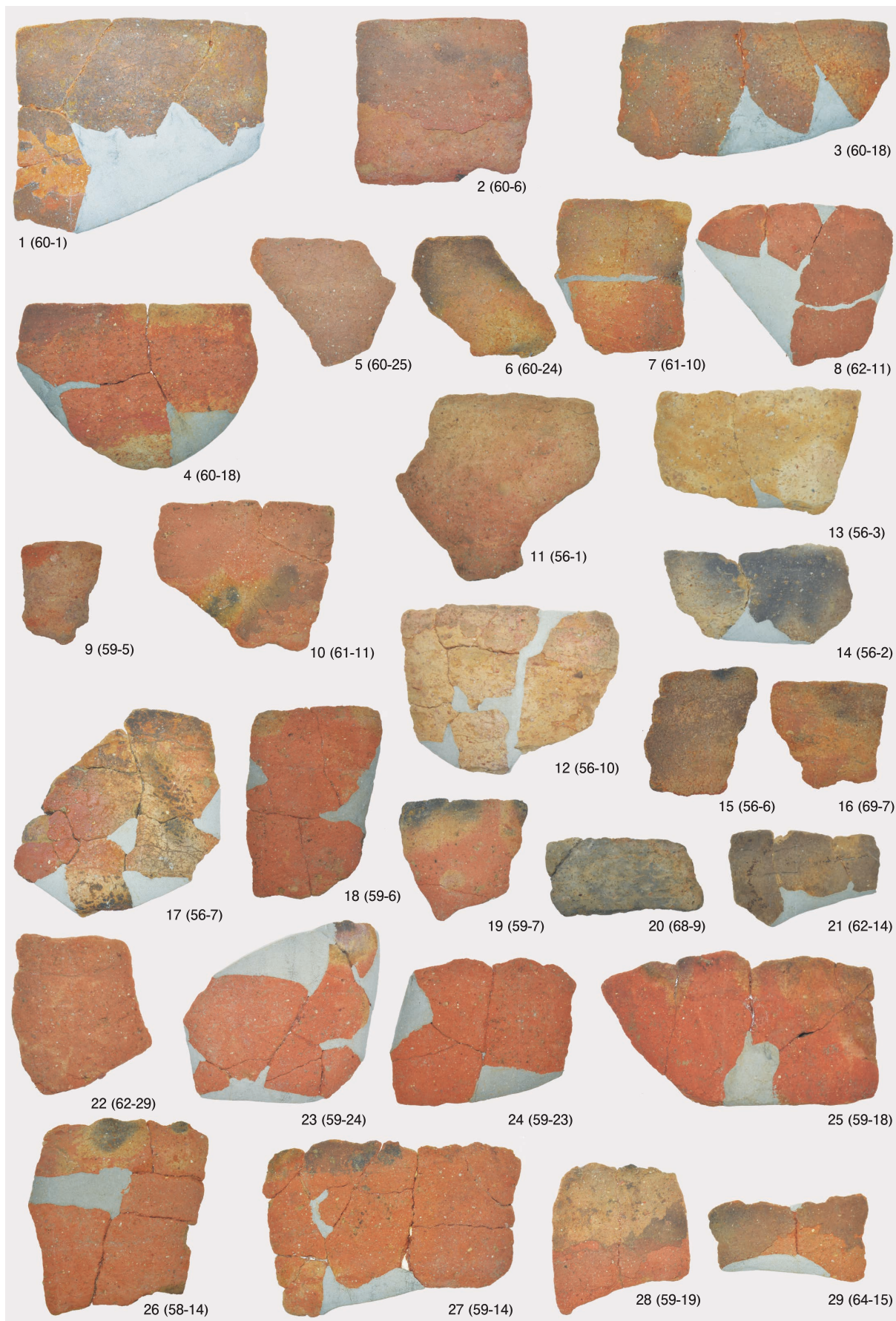


写真44 製塩土器 1

15・16はii類で口唇はナデ調整で外面は接合痕をわずかに残す。15の外面は指圧を残すナデ調整である。内面の口縁上位はナデ調整で指圧が明瞭で、口縁下位はミガキ調整である。16の口縁上位の内外面はナデ調整され、内面はやや粗く施される。口縁下位以下の外面はミガキ調整で指圧を残す。内面はミガキ調整である。

17～22は外面の調整が弱い。17～20はi類で口唇未調整である。17の外面はナデまたは粗いナデ調整であり、接合痕を多条に残す。

内面の口縁上位はナデ調整、口縁下位以下はミガキ調整である。18の外面はナデ調整で指圧を残す。内面はナデ調整であるが、口縁下位以下は一部ミガキが施され、指圧を多く残す。19の口縁上位の内外面はナデ調整である。外面の口縁下位以下はナデとミガキ調整であり、指圧を残す。口縁下位以下の内面はミガキ調整である。20の外面は剥離が激しいがナデ調整の可能性が高い。内面はナデ調整であり、口縁下位は指圧がある。

21は口唇ナデ調整のiii2類である。外面はナデ調整で、指圧をわずかに残す。内面の口縁上位はナデ調整で指圧を残す。口縁下位はミガキ調整が施される。22はii類で口唇ナデ調整である。外面はナデ調整で、指圧を残す。内面の口縁上位はナデ調整で指圧を残し、下位はミガキ調整である。

### Ⅲ A類 図42～44(No.23～29)

口縁平面形が波状で、外面調整は接合痕を残さないA類である。

23～26はii類であるが、口唇の調整は無い。23の外面はナデ調整で指圧を残す。内面の口縁はナデ調整で指圧を残すが、体部はミガキ調整である。24の外面はナデ調整で指圧を残す。内面はミガキ調整である。25の外面は粗いナデ調整である。内面の口縁はナデ調整、体部はケズリ後ナデ調整である。26の外面の口縁はナデ調整であるが、口縁下位はミガキ調整である。内面の口縁

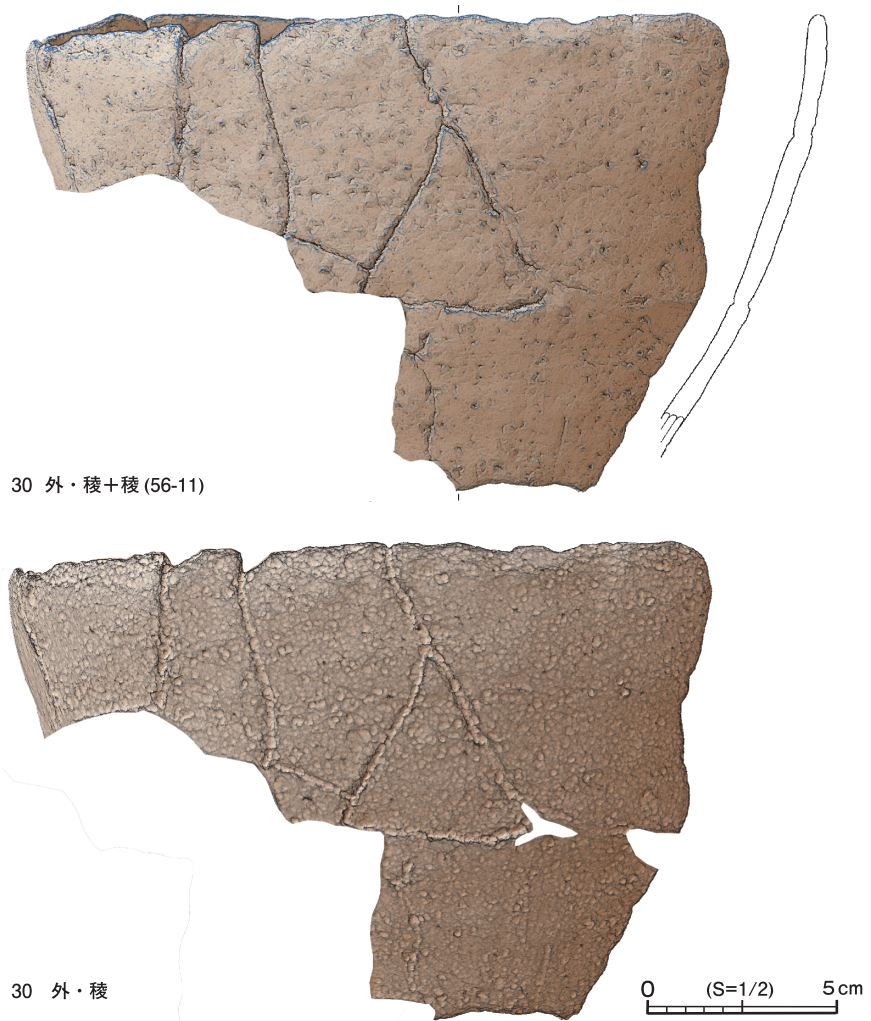
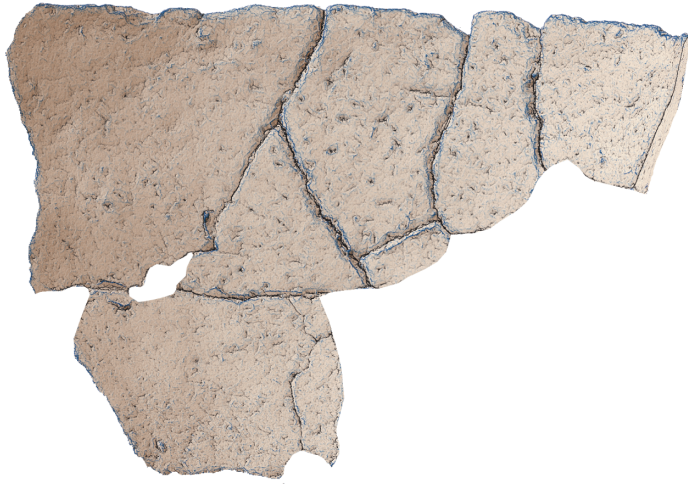


図45 製塩土器詳細図13



30 内・谷+稜 (56-11)



30 内・稜

図46 製塩土器詳細図14

内面には一部ミガキ調整がある。31の外表面はナデ調整で指圧をわずかに残す。内面の口縁上位はナデ調整だが、口縁下位から体部はミガキ調整である。32は内外面がナデ調整、指圧を残す。33は外表面の口縁上位はナデ調整、口縁下位はケズリ調整である。内面は口縁上位がナデ調整、口縁下位はミガキ調整である。

34・35はi類の口唇未調整である。34の外表面はナデ調整で指圧を残す。内面の口縁上位はナデ調整、口縁下位から体部はミガキ調整である。35は口縁上位の内外面はナデ調整を施す。口縁下位から体部の外表面はミガキ調整、内面はナデ、粗いナデ調整である。36はii類で口唇ナデ調整で、内外面とも口縁はナデ調整で指圧を残し、体部はミガキ調整である。

37・38はii類で口唇未調整である。いずれも外表面はナデ調整で指圧を残す。内面の口縁上位は粗いナデ、ナデで指圧を残し、内面はミガキ調整を施す。

39～44はi類で口唇未調整である。39は内外面ともに口縁はナデ調整で指圧を残し、体部は粗いナデ調整である。40の外表面はナデ調整で指圧が明瞭である。内面は粗いナデで指圧を残す。41～44の外表面はナデ調整で指圧を残す。内面は口縁がナデ調整で指圧を残し、体部はミガキ調整である。45はii類で口唇ナデ調整を施す。内外面とも口縁はナデ調整、体部はミガキ調整を施す。

はナデ調整、体部はミガキ調整である。

27～29はi類であり、口唇未調整である。27は外表面の剥離が激しいが、口縁上位はナデ調整で指圧が認められる。内面の口縁上位はナデ調整、口縁下位以下は粗いナデ、ミガキ調整である。28は外表面の剥離は激しいが、体部にミガキ調整が認められる。口縁内面はナデ調整で指圧を残す。体部内面はミガキ調整である。29の口縁上位の内外面はナデ調整、口縁下位以下の内外面はミガキ調整である。

### ⅢB類 図45～53(No.30～47)

口縁形態が波状で、外表面は接合痕を残すものである。30～33はii類の口唇未調整である。30の口縁内外面はナデ調整、体部外部は粗いナデ調整で指圧を残す。体部

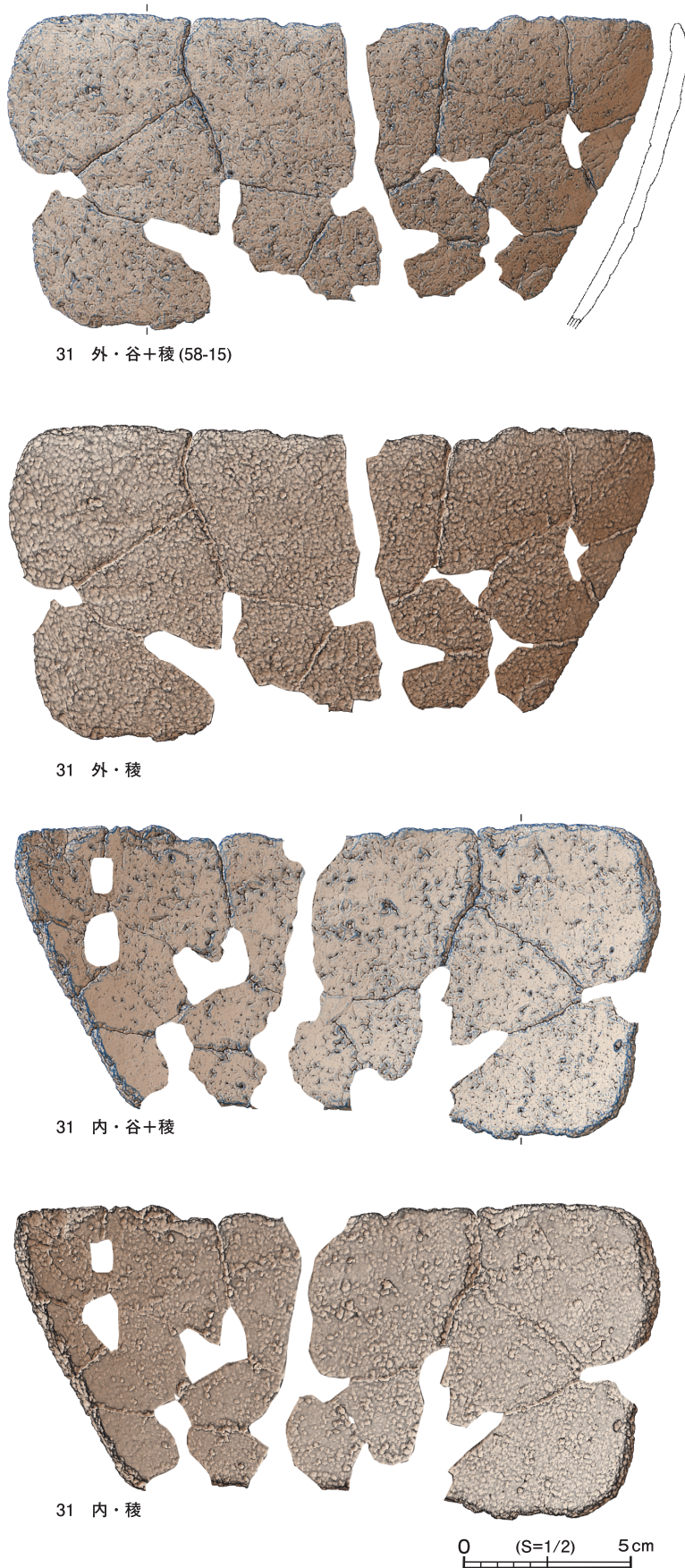


図47 製塩土器詳細図15

46・47は同一個体の可能性があり、著しく波状の口縁を呈する。ii類であり、口唇は未調整である。外面の口縁はナデ調整、体部は粗いナデ調整でいずれも指圧を明瞭に残す。内面の口縁上位は粗いナデ調整、体部はミガキ調整であるが、いずれも指圧を残す。

### Ⅱ C類

図54(No.48~51)

Ⅱ類で外面調整がC類である接合痕を直線的、溝状に残し、多段に配するものが少量ある。Ⅲ類では認められない。

48~50はi類で口唇未調整である。48は口縁の内外面はナデ調整で指圧を残す。体部は内外面ともミガキ調整であるが、外面は指圧を残す。49は隔離が激しいが外面はナデ調整で指圧を残す。内面は口縁がナデ調整、体部はミガキ調整である。50も外面は剥離が激しいが、指圧を残すとみられる。内面は口縁がナデ調整、体部はミガキ調整である。

51はi類で口唇はナデ調整である。外面は口縁がナデ調整、体部は粗いナデ調整で指圧を残す。内面はナデ調整で、口縁に指圧を残す。

その他 図55(No.52~54)

剥離がはげしく遺存状況が悪いため、肉眼観察で製塩土器と誤認の可能性がある粗製土器を提

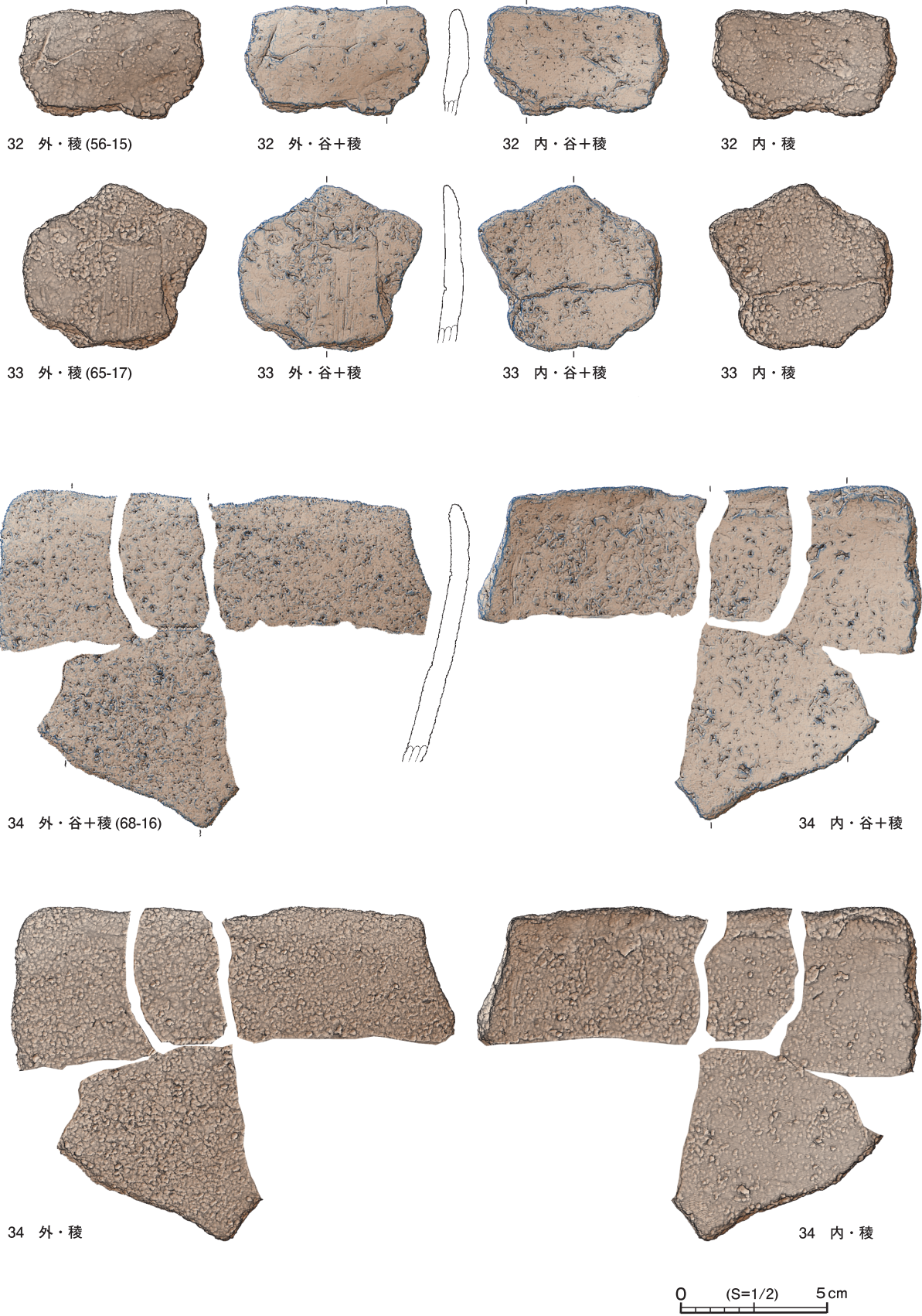


図48 製塩土器詳細図16

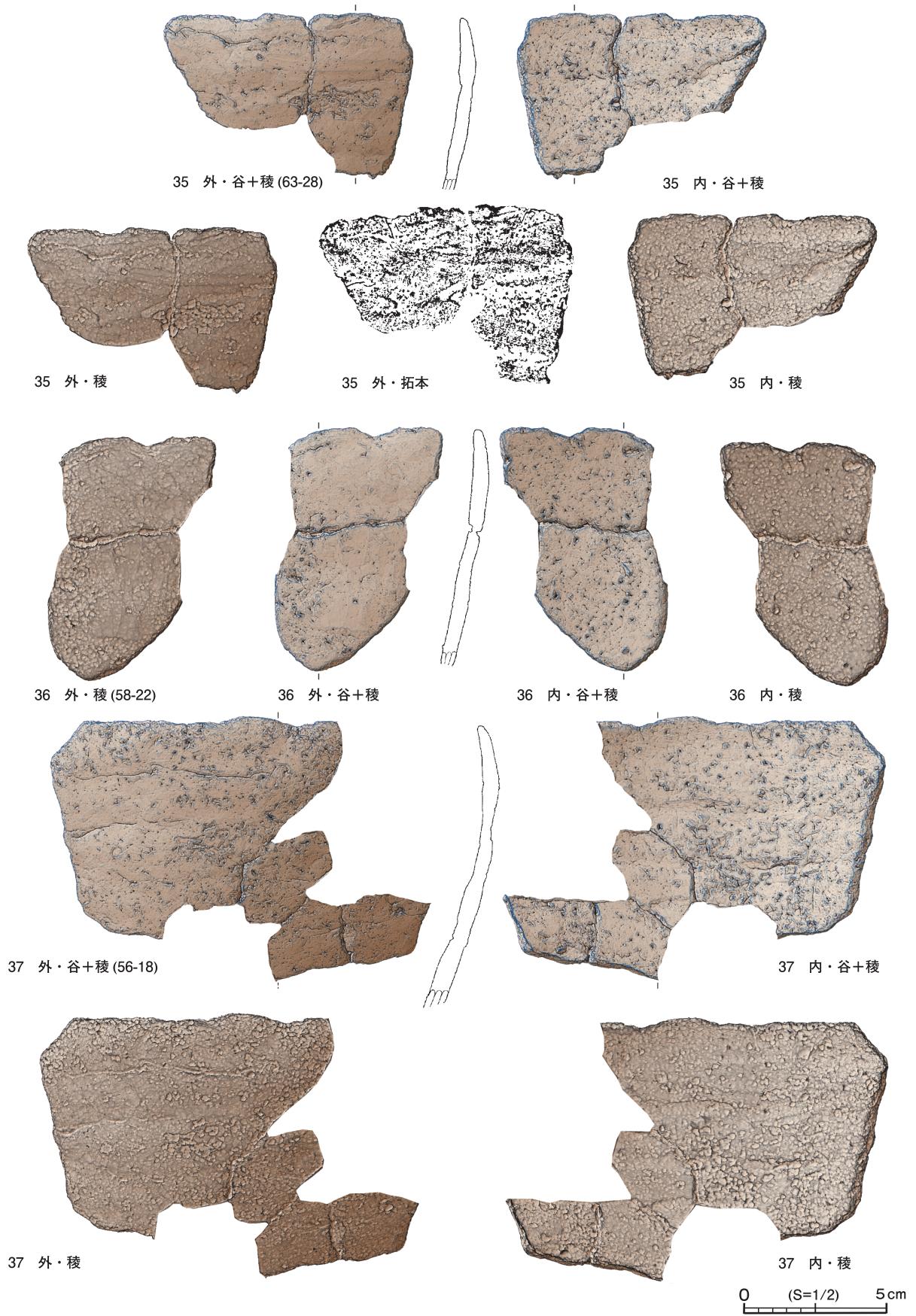


図49 製塩土器詳細図17



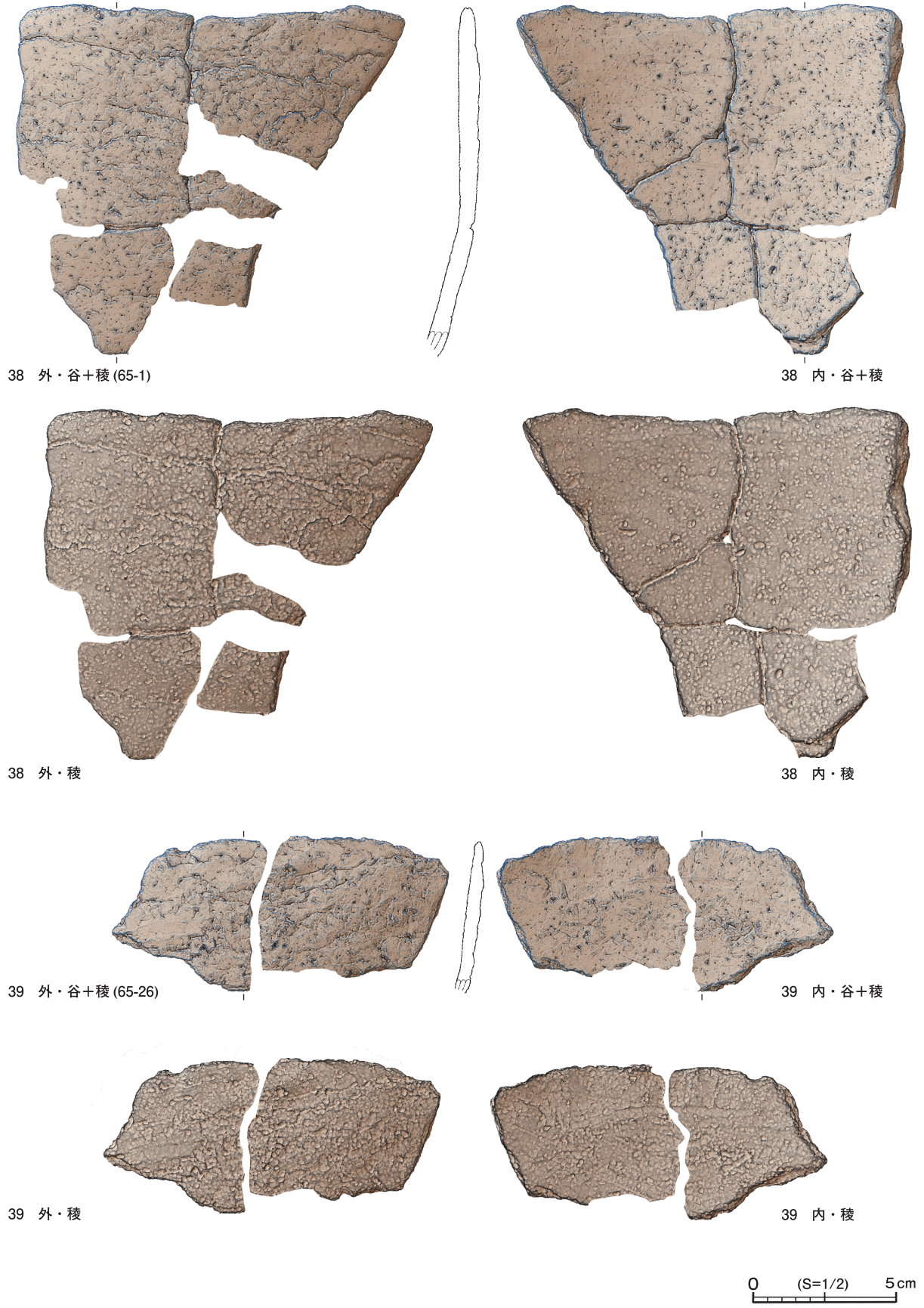
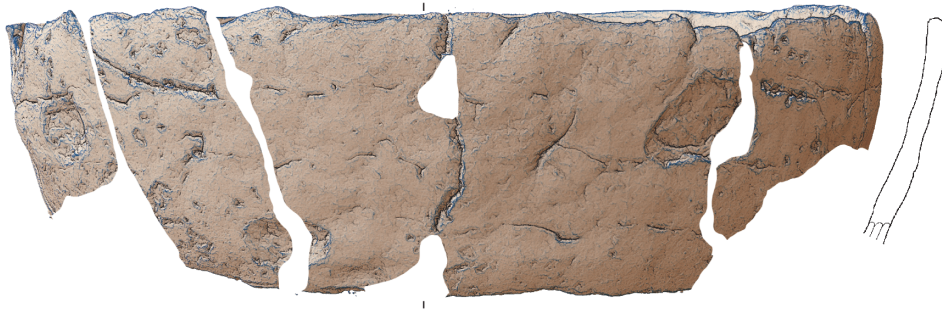


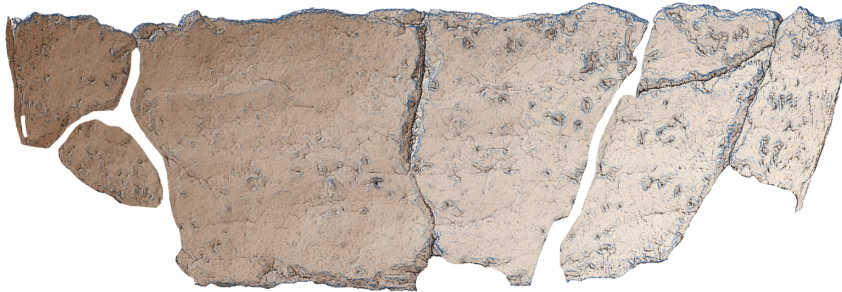
図50 製塩土器詳細図18



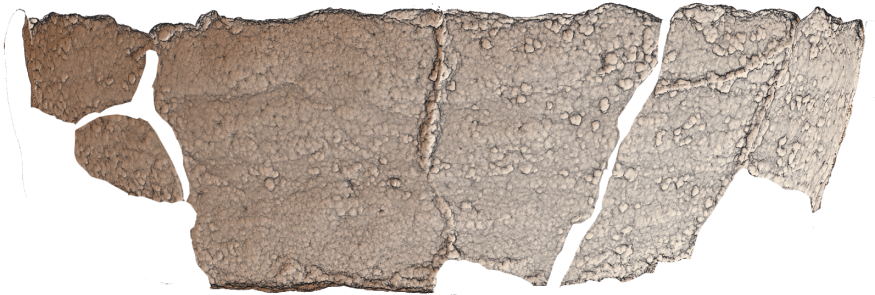
40 外・谷+稜 (56-12)



40 外・稜



40 内・谷+稜



40 内・稜

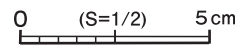


図51 製塩土器詳細図19